

- (1) 日時：令和3年7月14日（水） 15：10～16：00
(授業参観、学校運営協議会)

(2) 出席者

令和3年度学校運営協議会委員

沢井 万里子 梶本 興亜 小林 広英

笹川 忠士 松田 典子

校長 天野 誠

事務局

教頭 佐々木 里佳 事務長 富本 佳成

首席 穴井 友知 首席 西田 康子

教務主任 石田 和弘 進路部主任 山本 としこ

生徒指導部主任 川副 弘二

(3) 次第

- ・校長挨拶
- ・委員・事務局 自己紹介
- ・協議会会長・副会長の選出
- ・授業参観に対する意見・感想
- ・事務局より今年度の報告
学校経営計画に関して等
- ・協議・意見交流

1. 校長挨拶

2. 授業参観に対する意見・感想（3年化学、3年国語、1年英語、2年数学）

○：協議会委員 □事務局

○化学と数学はペースが良い。テンポよく進む授業。

国語は考えさせる授業で面白いが、それ以上に電子黒板の使い方に感心した。

受験対策的な話もしていて、生徒対応がうまい。英語はおもしろかった。あのような授業は受けたことが無く、受けられる生徒は幸せだと思う。先生の進歩はもちろん、生徒もそういう授業に対する反応が年々良くなり、積極的になってきている。

○初めて北野の授業を見学した。三年間北野に通うと授業のスピードにも慣れていき、集中力が持続するようになるのだと思う。また、家庭学習でも集中力が持続するようになったと見ているので、ありがたい。

○Padを利用したユニークな授業に感銘を受けた。自分たちの頃にはないテクニッ

クだと思う。生徒同士の話し合いも考えが深まりよい。小説の内容を理解させるために先生が地図を用いるなどさまざまな手法をうまく授業に取り入れており素晴らしい。

○かなり多彩な授業構成の印象。教員の準備が大変だろうと思った。授業内容について

大学でよくできたショートレポートを出したのは二人とも北野生であり、北野生はコミュニケーション能力が高く、思考も深い印象。そういう学生が配置される学校なの

だと実感している。これからもそういう生徒を育ててほしい。ただ、大学ではレポー

トがよくできている学生も、授業の中で自分の意見を表現する能力は弱いと感じている。若い人は伸びる力があるので、基礎学力を議論に応用出来るよう、高校生の際に上手く連携させてほしい。

○電子黒板の使い方が多彩になったと感じた。はじめは細かく作りこんでいたが、いまは自在に使いこなされている印象を受ける。そんな先生方の努力があり、生徒が集中力を切らさないのだと思う。質問なのだが、隣の人と話し合う一番の目的と効果はなにか。

天野校長

授業は個人の力を伸ばすものである。まず一人で考え、わからなければペアで話し、グループで話すという過程が大切であり、今の学習指導要領のねらいである。今はほとんどの先生がペアワークを取り入れているので、当初の目的だけではなく、授業に変化をつけて生徒の興味関心を持続させ、覚えた知識を確認するという目的も生まれてきたようだ。委員会の想定より発展した効果が表れていると感じる。

3. 事務局より

校長

<今年度学校経営計画について>

めざす学校像について話す。生徒が将来社会に貢献するためには、知・徳・体のバランス、豊かな人間性の二つが重要であり、文武両道の実践によって培う。それらを育むための前提条件として、アカデミックで自由な校風がある。外から北野の校風を見ていたときは、厳しい学校というイメージをもっていた。しかし、来てみると思いのほか自由だと感じている。この校風が豊かな人材を輩出する原動力だと思う。例えば、六稜祭で校長に似せたマネキンを作るクラスがあったり、カジノを開くクラスも二クラスあったりした。両方とも他校ではできない。それを見たとき、良い悪いは別にして、これを許せる学校の体制が、北野を支えていると思った。そのように、北野は厳格なだけではないということは伝えていきたい。

中期目標について話す。北野は高い学力の育成、国際社会のリーダーとなるた

めの豊かな人間性と心身のたくましさの育成、これを二本の柱としている。これらを達成すれば、グローバル・リーダーの育成も付随的に達成されるものと考えている。高い学力を担保していくのが授業である。すごい集中力で生徒が聞くというのは北野ならではの学校にはない。教員はそれに応える授業を展開しなければならない。そのためには努力が必要だし、管理職としてそれができるような環境を作る。8月末からクロームブックの端末を生徒に配付するので、先ほどの国語のような授業展開がいろいろなところでなされるだろう。使用開始にあたりプロジェクトチームも立ち上げている。それを使うことが目的ではなく、生徒が集中できるような使い方をめざしたい。教員のスキルを担保しながら活用するための方法を模索したい。豊かな人間性を担保するのが学校行事・部活動である。北野に赴任して感心したのは、学校行事が全て授業に紐づいており、授業の成果発表という位置づけになっていること。学校行事が教育課程に位置づけられている。課題研究についても同様に、教育課程に位置づけられている。また、部活動はコロナ禍という状況の中であっても、私としては機会を保障していきたい。授業・学校行事・部活動を今後も充実させたいと考えている。それを保障する働き方改革として、教員のスキルの継承の方法は課題である。

□生徒指導部 川副生徒指導部主任より

生徒の様子について。3年生は昨年からのコロナの影響があり、修学旅行など様々な行事ができなかった。部活動最後の大会目前も、満足な練習ができず不燃焼のまま迎えた。大人はかわいそうと思

っているが、元気に遅く過ごしている。社会状況を見ながら自分はどうするべきか考えて生活できている。二年生も三年生の姿を見て元気よく勉強部活動に励んでいる。これは学校の模範的な姿である。コロナの不安、進路の不安、精神的な部分でしんどくなる子はスクールカウンセラーなど教育相談でフォローしていく。答えのないことが非常に多い。生徒としっかり意見交換することを先生も心がけている。

行事について。昨年中止だった六稜祭は、今年は再三の延期の末に実施できた。終わったときの彼らの顔を見て、やって良かった、楽しみにしていたのだなと感じた。社会情勢に左右されるが、今後もできる限り行事は実施していきたい。北野高校の生徒と見られる自覚を持ってもらいつつ、活発な活動を支援していきたい。

□教務部 石田教務部主任より

教科書選択の流れについて。教科用図書選定委員会を三回実施した。第一回目は6月3日。注意事項と、来年から新カリキュラムについての留意事項の確認し、それをもとに教科ごとに決定した。六月下旬に第二回を実施した。教科ごとの選定理由・決定を共有した。三回目は7月9日に実施した。教科主任が集まり共有した。見やすい、内容が充実している、興味関心を引きやすい、などの項目を満たしており、北野の生徒にふさわしいと感じている。

□進路部 山本進路部主任より

大学入試の結果について。大学別の合格者数、延べ人数、希望の多い大学の現役生・浪人生の合格者数をご覧ください。1・2年向けの進路説明会での説明について。進路結果の細かい内訳をご覧ください。北野に入学した理由を生徒に思い出してもらうために話した。北野は中高一貫校と違い、中学とは違う人間関係が築け、府内から優秀な人間が集まる。昼間、学校の授業をフル活用し、潜在的な力を上げてもらいたい。社会で活躍している卒業生との出会いの場づくりをして、将来への希望を持てる環境を整えたい。今年の三年は、各教科から聞き取ったところ、例年通りの学力であると、校内模試を通して感じた。昨年度と進路希望調査の結果を比べると、学年で約15人がやや安全志向に。東大・京大志望が各クラス2名ずつ少ない。そのぶん阪大・神大が増えている。130期から東大・京大希望が増えたが、近年特に京大だけでなく東大希望も多くなった。やや関東志向が増加したと感じる。約200人が現役で志望大学に。一浪後志望大学には100名ほど。全体としてその年度では私大進学は20人を切り、国公立第一志望が多い。

□首席 穴井首席より

令和3年度 WWL 最終年度における取組みについて。今年3年目を迎える。昨年度は海外研修できず。できるだけ代替イベント考え、アンケートは昨年とほぼ同じ結果になった。今年度も海外研修以外は例年通りを予定している。課題研究は60名WWLを希望。英語社会理科体育に分れ課題研究。うち24名が3月末にオーストラリア研修の代替である淡路島の研修に参加。即興型英語ディベート、学内留学、グローバルリーダー養成講座は定員40人満員。海外研修の代替案として、オンライン交流を進めている。留学生は10月から受け入れに変更した。インドとパキスタンから。高校生国際会議は例年通り実施。

4. 協議・意見交流

○生徒指導について。北野に入って、より上がいることに気づき落ち込む生徒がいる。高校の成績の良し悪しではなく、北野高校で過ごしたということがその後の活動の力となる事を生徒に伝えてあげればよい。一番大事なのは校長も言うように授業の充実である。その為には手法も大事だが、先生自身も教えること、学ぶことに興味を持つことが非常に大事だ。先生が自分を肥やしていける時間を持てる環境を上手く作ってほしい。

○授業についていけない子供がいる母親からのお声が耳に入ってくる。せつかく北野に入ったのにと落胆している子供が何人もいる。反抗期なので聞いても子供が答えず、保護者としてうろたえている。一人でもそういう子供達を救ってほしい。

○以前から思っていたが、職業ガイダンスを充実してほしい。同窓会内に、色々な世界で色々な分野で活躍している人が沢山いる。幅広くガイダンスしてほしい。医者ばかり志望するのはおかしい。世界は広い。同窓会も協力するのでその辺を指導してほしい。

○学習に悩んでいる生徒、受験に悩む生徒について。高校生にとって当面の目標は受験だが、それだけではない、もう一步先を見据える価値観を高校で提供できたら良い。やりたいことが明確で、生き生きとしている人が、ステップアップするために京大の大学院に来る。精神の安定をもたらすことができる環境が必要だ。WWLの面白い発表は沢山ある。色々な道がある。北野で学んだことは本当に貴重である。上手く継承しながら次のステップへ行けるとよい。勉強以外の価値観として人間性も育成し、成績が悪くても違う価値観をもって評価できる多様性を育めるような活動に取り組んでほしい。

○私は特に勉強できる方ではなかったが、社会経験を積んで今ここにいる。粘り強さは北野生共通だ。それぞれの個性を作り上げてほしい。授業準備は本当に大変だと思う。働き方改革など合理的にやっていただきたい。先生方のケアをして欲しい。

○仕事を増やすのは簡単。それをシンプルにして、減らしていけたら、より素晴らしい学校になると思う。

教員の教育活動に係る保護者からの意見の調査・審議 等 なし